



(わだひろゆき)

和田 裕行

所属 パシフィックコンサルタンツ
株式会社 社会イノベーション
事業本部 交通政策部 部長

資格 技術士(建設一道路)

対象インフラ

道路、鉄軌道、交通結節点、公園・河川環境

専門分野

都市インフラの経済分析、交通インフラの
経済分析、交通ネットワーク解析・交通
行動分析

対応可能地域

全国

連絡先

hiroyuki.wada@tk.pacific.co.jp

※メール送付の際は「Σ」を「@」に変えて送信ください

相談方法

オンライン・メール(電話・対面も可)

◆ 経歴・各種委員・講師経験など

2002年3月
2002年4月
2025年10月
2024年4月～

早稲田大学大学院理工学研究科建設工学専攻修了
パシフィックコンサルタンツ株式会社入社
現職
一般社団法人 建設コンサルタント協会
政策・事業評価専門委員会 委員

◆ 分析支援可能な知識・経験

【主な分析実績】

- ・ 道路整備による各種ストック効果分析
- ・ 鉄軌道整備による経済効果・土地利用の効果分析
- ・ 都市圏・都市における総合交通体系調査(需要予測、効果計測)
- ・ 計量経済モデル等による道路整備の効果の推計
- ・ 河川、公園等の環境整備による非市場価値の効果計測
- ・ 事前防災投資による経済効果の推計 など

【主な分析スキル】

- ・ CVM・コンジョイント分析等を用いた非市場価値の評価
- ・ 人流データ・パーソントリップ調査を用いた鉄軌道の需要予測・効果計測
- ・ 土地利用交通モデルを活用した施策実施時の土地利用変化の予測・効果計測
- ・ 人流等のビッグデータを活用した各種効果計測

【これまでの経験をふまえたメッセージ】

- ・ 国や地方公共団体における、様々な社会資本整備の事業評価・政策評価を支援してきました。利用価値等の顕在化した効果計測・評価のみならず、非市場価値の評価等の実績を有しています。
- ・ パーソントリップ調査・人流等のビッグデータを活用した四段階推計法、非集計等の行動モデルによる新たな公共交通の需要予測、効果計測の実績も有しています。

◆ 業務・学術論文実績

【業務実績】

- ・ 経済モデルへの防災効果の反映の可能性整理業務(2011年、国土交通省国土技術政策総合研究所)
- ・ 総合都市交通計画策定(2013年、地方公共団体)
- ・ 都市計画道路のストック効果に関する調査検討(2017年、国土交通省都市局)
- ・ 総合都市交通体系調査(2018年、地方公共団体)
- ・ 道路の整備効果及び事業評価手法の検討(2018年、民間企業)
- ・ 都市モノレール事業の需要予測検討(2018年、地方公共団体)
- ・ 料金施策の需要予測手法・経済評価手法検討(2020年、民間企業)
- ・ データを活用したまちづくりの深度化に向けた調査検討(2021年、国土交通省都市局)
- ・ 道路整備に係る多様な効果の検討(2022年、国土交通省道路局)
- ・ 高速道路ネットワークの事業効果・経済効果検討(2022年、民間企業)
- ・ 鉄軌道導入効果等検討(2023年、地方公共団体)
- ・ 全国幹線旅客純流動調査の高度化に向けたビッグデータ分析等検討(2024年、国土交通省総合政策局)

【学術論文実績(査読付き)】

- ・ 和田・浅野 ロードプライシングの動的課金額の設定と評価に関する一考察 浅野交通工学研究発表会論文報告集 / 交通工学研究会 編 22 2002.10
- ・ 竹田・和田 地方鉄道のバス代替評価について 運輸と経済 66 (2), 53-58, 2006-02
- ・ 和田・湧川・横松・竹谷 The Role of Macro-Economic Model for Disaster Risk Reduction Policy in Developing Countries IDRim Journal Vol 4, No 1 2014-08-12

◆ 取組事例

- ・ 地方鉄道のバス代替評価の研究では、地方鉄道の評価方法として鉄道が存続による効果として、存在効果を含む評価方法、鉄道存続と代替バス運行の比較による評価方法を提案しました。
- ・ 存在効果の計測方法は、現在の鉄道プロジェクトの評価手法マニュアル(2012年改訂版、2025年3月一部変更)に示される存在効果の計測の基本的な考え方となっています。

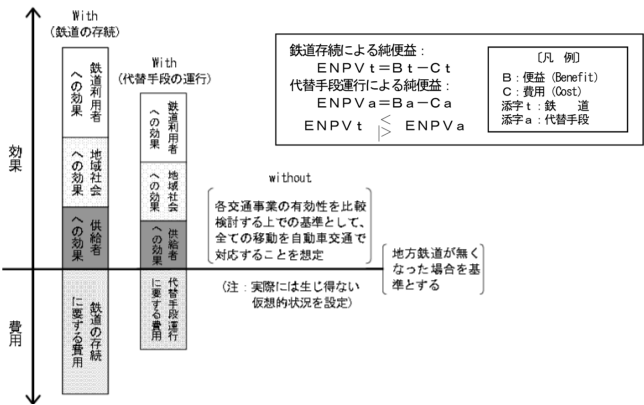


図 費用対効果の捉え方

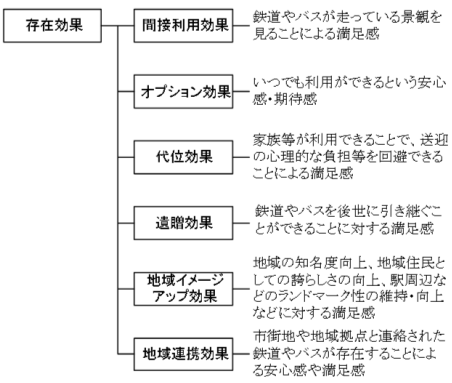


図 存在効果の分類